

収量構成要素

栽植密度 18.2株/㎡

一株穂数 25本/株

一穂着粒数 67粒/穂

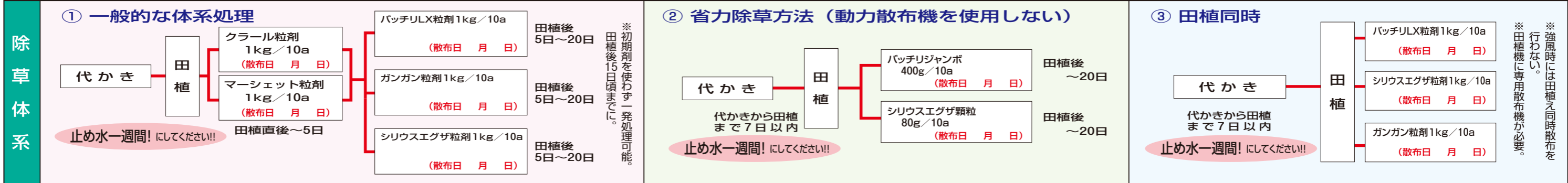
登熟歩合 85%

千粒重 23.0g

収量 600kg/10a

月旬	3月		4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上

病害虫防除	基幹防除		箱予防			カメムシ防除			カメムシ防除			カメムシ防除			カメムシ防除			カメムシ防除			
	種子消毒 テクリードC フロアブル 200倍 24時間浸透 (散布日 月 日)	ダコレート水和剤500倍 (散布日 月 日)	ダコレート100g →水50ℓ →苗箱100枚 (散布日 月 日)																		
異常発生防除	苗立枯病 タチガレエースM液剤500倍 (散布日 月 日) タチガレエース100cc →水50ℓ →苗箱100枚					紋枯病(常発地) リンバー粒剤 3~4kg/10a (散布日 月 日)			葉いもち ブラシン粉剤DL 4kg/10a (散布日 月 日)			ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ トレボン粉剤DL 3kg/10a (散布日 月 日)									



〈省力化一発体系〉

肥料名	施肥料 (10a)				
	N	P	K		
基肥	BB新早生一発くん	35~45kg	8.4~10.8kg	5.2~6.7kg	2.8~3.6kg
中間追肥	珪酸加里プレミア	40kg	—	—	8.0kg

〈分施肥体系〉

肥料名	区分	施肥量 (10a)				
		N	P	K		
基肥	BB056号	全層	35~40kg	3.5~4.0kg	8.8~10.0kg	5.6~6.4kg
	BB003号	側条	35~40kg	3.5~4.0kg	7.0~8.0kg	4.6~5.2kg
中間追肥	珪酸加里プレミア	全層	40kg	—	—	8.0kg
穂肥	BB有機入り いしかわライト550	穂肥1回目 (出穂前23日)	17kg	2.6kg	0.9kg	1.7kg
		穂肥2回目 (出穂前10日)	22kg	3.3kg	1.1kg	2.2kg
	合計	39kg	5.9kg	2.0kg	3.9kg	
	有機入りいしかわ穂肥一発055	穂肥1回施用 (出穂前23日)	27kg	5.4kg	1.4kg	4.1kg

3月 うまい・きれい米づくりのスタートです。

☆営農のポイント

- ・種子消毒
テクリードCフロアブル 200倍 24時間浸漬
- ・浸種
水温と浸種期間

水温	7℃	10℃	15℃
浸種期間	18日間	13日間	9日間

- ・催芽
催芽温度 30℃
催芽程度 芽が1mm程度で、揃っている。

7月 生育環境を良くし、良質穂をつくる。 **紋枯病に注意**

☆営農のポイント

- ・穂肥 第1回穂肥診断の目安(出穂23日前)

	葉色	葉の状態	施用時期	施用量
条間が手前から20~30mくらいまで見える	3.9以下	立つひらつく	標準(1mm)	やや多く
	4.0	立つひらつく	標準(1mm) 1~2日遅く	標準量
	4.1以上	立つひらつく	1~2日遅く	減らす
条間が見えない	3.9以下	立つひらつく	標準(1mm) 1~2日遅く	標準量
	4.0	立つひらつく	標準(1mm) 1~2日遅く	減らす
	4.1以上	立つひらつく	1~2日遅く	減らす

- ・水管理
中干し後、3~4日間ごとに通水(間断通水) フェーン時には通水し、水分補給する。 夜間通水し、稲体の活力維持に努める(高夜温が続く場合)
- ・病害虫防除
葉いもち、紋枯病の発生に注意
葉いもち…ブラシン粉剤DL 4kg/10a
紋枯病…リンバー粒剤 3~4kg/10a
稲こうじ病…Zボルドー粉剤 3~4kg/10a
- ・畦畔・農道除草(カメムシ類対策)
集落ぐるみで行う。(7月10日まで)



幼穂形成期にはキチッと穂肥の入る「うち(条間)」の見える稲に仕上げよう。



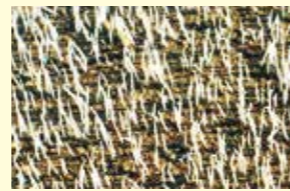
最近多発しているカメムシ

アカヒゲホソミドリカメムシ類(幼虫)

4月 米づくりは苗づくりから。

☆営農のポイント

- ・播種
播種量 120g/箱



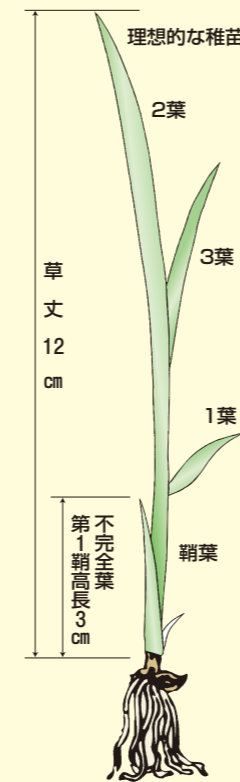
120g播種で健苗育成

・育苗管理

	温度管理	灌 水
緑化期(1~4日後)	・昼20~25℃ ・夜15~20℃以上	・覆土の持ち上がりや箱のズミが白く乾いた時だけ灌水する。
硬化期前期(5~9日後)	・昼20℃前後 ・夜10℃以上	・午前10時頃までに行う ・晴天の日の朝は十分に行う ・雨天の日は床土の乾き具合に応じて
硬化期中期(10~15日後)	・昼15~20℃ ・夜10℃以上	・朝方ムラなく十分に行う
硬化期後期(16日~)	・外気温にならず 田植え8~10日前	・床土が乾きやすいので、朝昼2回必要な場合があるので注意。
田植え4~5日前	・夜間も換気	

※()内はハウス搬入後日数

5月 苗づくりから稲づくりへ。



☆営農のポイント

茎が増えやすいので、過繁茂(できすぎ)に特に注意する。

- ・田植時
植付株数60株を基本とする。植付本数3本~4本とし、1~2本の株があっても補植しない。
- ・田植直後
植傷みを防ぐため、深水管理とする。
- ・活着後
低温・強風時以外は浅水管理とする。
- ・田干し
5月下旬の温暖な日に2~3回落水する。
- ・溝切り準備
5月末に溝切り準備にとりかかる。

中干しは早めに!!(15~17本/株が開始時期)
出来過ぎは、乳白、倒伏の要因!!

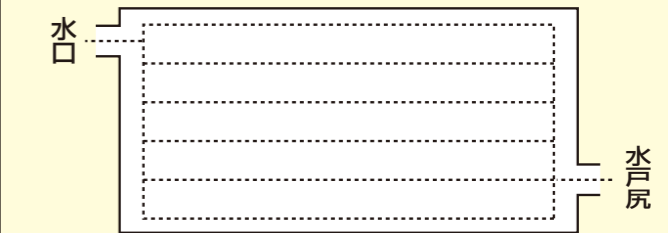
6月 今月が勝負どころ。

☆営農のポイント

- ・溝切り
6月3日頃から溝切りスタート



溝切りは、入水落水を容易にします。



※必ず溝は水口水戸尻を結ぶ

- ・中干し
6月末頃まで中干しを続ける。
- ・珪酸加里の施用
稲体の健全化のため、珪酸加里を40kg/10a施用する。



トゲシロホシカメムシ(幼虫)

・畦畔・農道の除草
カメムシ類の生息場所をなくす。

8月 葉・茎・根の活力が決め手です。

☆営農のポイント

- ・水管理
出穂後は、「1日通水後、2~3日落水」を繰り返す。圃場では、少し足が沈む程度の湿潤状態を保つ(飽水管理) フェーン時や強風時は、早急に入水する。地域ぐるみで計画的な通水に努める。

圃場の過乾燥は、着色米の要因!! こまめな水管理を!!

9月 うまい・きれいの総仕上げ。

☆営農のポイント

- ・水管理
刈り取り5日前まで、通水管理を続ける。
- ・適正な乾燥調整
乾燥中の穀温35℃以下を目安
こまめに水分を測定
肌ずれ米防止(水分過多や高温物は粉ずりしない)
適正な網目を使用(1.90mm LL網)



10月 稲刈りあとから始まります。

☆営農のポイント

- ・土づくり(10月中旬までに耕起)
稲わらの全量鋤込み(稲わら600kgは、堆肥1tに相当)

「売れる米」づくりは土づくりから!!

BB早生一発くんは、省力化肥料ですが、穂肥の肥効部分には、リン酸・カリが含まれていません。毎年施用すると地力低下を招きますので、必ず収穫後は土づくりを実践して下さい。

肥料名	施用量(10a)
ダイナマイトソイル	100Kg
パワフル大地	60Kg

深耕(15cmをめざす)

【畦畔で使用可能な除草剤一覧】 . . . 現在

除草剤名	水 稲		
	耕 起 前	生育期間中	収 穫 後
ラウンドアップマックスロード	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注1	2回 ※注1
	使用時期	耕起20~10日前	収穫前日まで
タッチダウンQ	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注1	2回 ※注1
	使用時期	耕起5日前	収穫14日前まで
サンフーロン	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注1	2回 ※注1
	使用時期	耕起20~10日前	収穫14日前まで
ザクサ液剤	登録有無	○	○
	使用回数	1回	2回
	使用時期	耕起前	収穫7日前まで
ブリグロックスL	登録有無	○	○
	使用回数	1回 ※注2	5回
	使用時期	耕起1ヶ月~直前	雑草生育期
カーメックス顆粒	登録有無	○	○
	使用回数	X	1回
	使用時期		雑草発生前
MCPソーダ塩	登録有無	○	○
	使用回数	X	3回
	使用時期		収穫14日前まで

※注1: ラウンドアップマックスロードとタッチダウンQ、サンフーロンには同一成分が含まれていますので、3割合わせての回数です。
※注2: ブリグロックスLは、収穫後もしくは耕起前のどちらか1回使用可。

~しっかり記帳、安全・安心 米づくり~